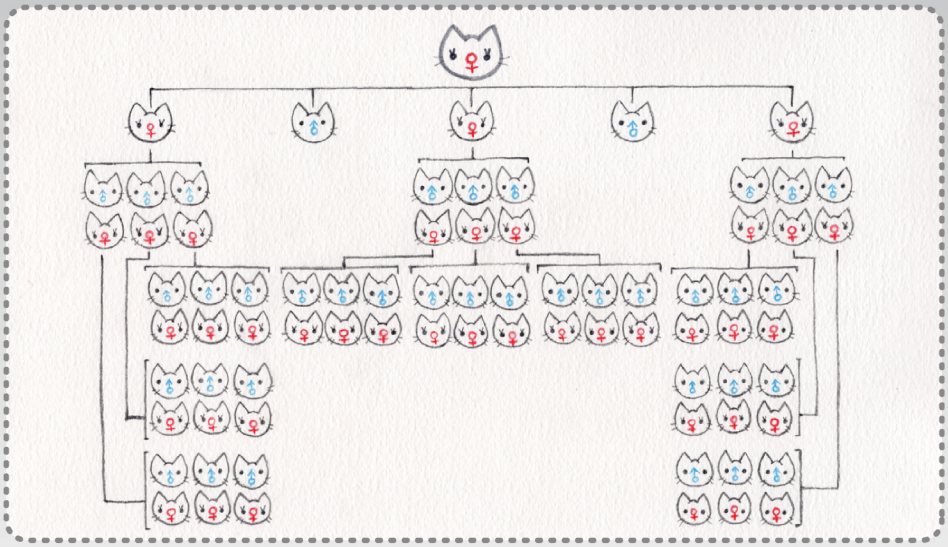
てのひらに いのち

今日もどこかで、子猫が生まれています。子猫はすぐ大人になり、半年たてば4匹から6匹の赤ちゃんを生みます。多ければ年に三回も出産するので、一匹の子猫が、たった一年間で70匹まで増えてしまうこともあるのです。



人に拾われて、しあわせに暮らせる子は、本当に幸運な一握りです。それ以外には、野良猫としてのきびしい暮らしが待っています。夏の暑さ、こごえる冬、台風や雷にたえながら、食べ物を探します。野生動物に襲われたり、人にいじめられたり、交通事故にあったり、猫同士のケンカでケガをしたり、感染症にかかったり、危険と隣り合わせの毎日です。

拾てられて、動物保護施設に収容されると、センターによっては、職員とボランティアが協力して子猫を救う努力をしています。お母さん猫の代わりに、数時間ごとにミルクをやり、トイレをさせて、温度管理をして、一生懸命に育てた子たちに、新しい家族をみつける活動をしています。いっぴきを救うのは大変なことで、時間とお金もかかります。

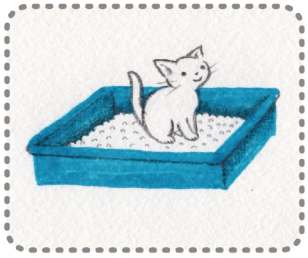
だから、すべての猫たちを救えません。救われなかった猫たちは、センターの処分機で殺処分されます。

赤ちゃんを生めないようにするのが、ふにんきょせい手術です。猫を増やさないための一番の方法として、じょせい金制度がある自治体もあります。けれど、この手術は「自然じゃない」「人間の勝手」「かわいそう」と言って反対する人が少なくありません。

ふにんきょせい手術は、たしかに自然ではないし、人間の都合で行う手術だし、病気でもないのに手術されるのはかわいそうです。でも、手術しないために増えてしまった猫たちが、お腹をすかせ、病気になり、ぼろぼろな姿で暮らすことは、もっともっとかわいそうではないでしょうか。

家のない猫を、地域の人たちで世話する「地域猫活動」というものがあります。猫たちに、ふにんきょせい手術をし、食べ物を与えたあととトイレの掃除をして、地域の人たちで見守ります。お腹いっぱいの猫は、よその家に入っていたずらしたり、庭や花壇でトイレしたりしないので、迷惑になりません。そして、世話してくれる人がいるのは、猫たちにとって幸せなことです。

生まれて間もない、おさない子猫。生きようと、せいいっぱいの声をあげています。
手のひらにおさまる、小さないのち。わたしたちと同じ、それぞれに　ひとつだけのいのちです。



絵 どいかや　文 渡辺眞子

ご自由にプリントアウトしてご利用下さい。なお著作権は一般社団法人フリーペッツに帰属します。許可なく内容の一部、または全部を改変することを禁じます。またこのポスターを許可なく複製販売したり、これを用いて寄付を集める等、営利目的の利用も禁止いたします。http://freepets.jp/